

いい町に住んでよかった



デイ・サービス
保免 和田 寿喜枝

母が死んで寝たきりの父を引き取ったのは、もう二十何年前のこと。山の家から同じ町内とはいえ街の私達の家へ連れ帰った時は、さぞや父は心細い事であつたらう。八十三才であつた。どこへ行く事もなく一人でテレビを見ながら勤めから帰る私達夫婦を待ち続けていたっけ…。

今の私、七〇才。お父さんと二人でこれからの人生を楽しもうと期待していたのに、二年前ぱっくりと私をおいて先に行ってしまった。腸の手術、胆石の手術、神経痛の足と、私のほうが先にまいるつもりで何時も労ってもらっていたのに、ひとりになったやるせない悲しさ、さびしさ、ただ泣くだけであつた。

「亡き夫の星は何処や天の川」

川内町どじょう汁句会で選を受けて少しは元気になった。そしてゲートボールの仲間にもいれてもらった。又、去年の暮れよりデイサービスが受けられる事になった。私の受けているデイサービスは、生活指導・健康チェック・入浴・給食である。まず私は「えぐも」に近いので徒歩で行く。やさしく迎えてくれる職員の方に、ほっと息をつく間もなく美味しいお茶の接待を受け健康チェックを受ける。心も落ち着いて昼食・入浴・レクリエーション・軽

い運動リハビリをして3時には帰る。ただこれだけの1日数時間ではあるけれど充実した楽しい時間である。私がこのサービスを受けるようになってからまだ日は浅いが、手も足もなえて体の自由もきかない方達やいろいろな人達みんなの明るい目には、何か嬉しくなってしまう。初めはちょっと恥ずかしくて職員の方に注意されないかと心配したけれど、相手の人の手の平と私の手の平を「パッチン」と併せて「こんにちは」と言う事になっている。車椅子の中で身動きもしない方にも一人一人手を合わせて挨拶をする。さぞやおっちょこちよいなばあさんだなーと誰かが笑っているかもしれないけれど、もし誰か飛ばしていると、頭を動かすのも不自由な体をそつとのばすようにしてパッチンを待っていてくださる。ここでぼけている老人なんか誰もいない。家ではぼーとなる時もあるだろうけれど「えぐも」へ来れば幼かった頃を思い出されるし、親のように甘えられる職員がいてくれる。レクリエーションの折紙も楽しい。指先の運動にもなり、今昔をしのびながら小さな作品が出来上がるたびに歓声上がる。2月末におひな様が画用紙一杯に張り終わったときは本当に嬉しかった。

独居老人にはもったいない、うす味で食べやすいメニューの昼食。スベスベとしたやわらかいお湯での入浴（みんな美人になっってしまう！）。こんないい老人保養が受けられる福祉施設が昔にもあったら亡き父を連れてきてやりたかった。そしたらもっと長く生きていてくれたであろう。今、私はお父さんに死に別れて一人になり心細いけれど、いい時代の老人であつてよかった。いい町川内町に住んでよかった。ほんわかした湯にすっぱりと体を温めながらしみじみと感謝している。